

大会名 Competition	第31回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-105	Year Month Day Time 2018 年 5 月 3 日 17 : 00
場 所 Place	能代市総合体育館

発行：能代市バスケットボール協会
http://ncup.snowland.net



チームA		チームB										
福大大濠	<table border="1"> <tr><td>22 1st</td><td>12</td></tr> <tr><td>20 2nd</td><td>18</td></tr> <tr><td>16 3rd</td><td>20</td></tr> <tr><td>16 4th</td><td>20</td></tr> <tr><td colspan="2">E P</td></tr> </table>	22 1st	12	20 2nd	18	16 3rd	20	16 4th	20	E P		能代工業
22 1st	12											
20 2nd	18											
16 3rd	20											
16 4th	20											
E P												
74 ○		70 ●										

主審:Crew chief
中川行臣 静岡
副審:Umpire
山田 俊 宮城
水木順仁 秋田
テーブルオフィシャル:Table officials
能代松陽男子

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	✓	山本 草大	CAP	0	0	0	0	0	4	×	遠田 貴大	CAP	0	0	0	0	2
5	✓	土家 大輝		2	0	1	0	1	5	×	新田 由直		10	0	4	2	0
6	✓	西田 公陽		0	0	0	0	0	6	✓	牧野 湧		2	0	0	2	0
7	×	浅井 修伍		19	0	8	3	2	7	✓	齋藤 創		2	0	1	0	3
8	×	木林 優		3	0	1	1	3	8	×	高橋 日向		1	0	0	1	1
9	×	黒木 丈		7	0	3	1	3	9	×	佐藤 侃		0	0	0	0	0
10	✓	緒方 康太		0	0	0	0	0	10	×	秋元 淳之介		2	0	0	2	2
11	✓	原田 大和		0	0	0	0	0	11	✓	須藤 陸		19	6	0	1	3
12	✓	田邊 太一		2	0	1	0	0	12	✓	伊東 翼		11	1	4	0	4
13	×	中田 嵩基		8	2	0	2	4	13	✓	中山 玄己		23	7	0	2	2
14	×	横地 聖真		23	1	7	6	0	14		上村 悠真		-	-	-	-	0
15		岩橋 史門		-	-	-	-	0	15	✓	佐々木 駿汰		0	0	0	0	0
16		平松 克樹		-	-	-	-	0	16		上村 大佐		-	-	-	-	0
17	✓	間山 柗		10	0	5	0	2	17		森山 陽向		-	-	-	-	0
18		高木 寛大		-	-	-	-	0	18		成澤 頼		-	-	-	-	0
コーチ		片峯 聡太						0	コーチ		杉沢 政						0
コーチ		松本 考司						0	コーチ		小野 秀二						0
合計				74	3	26	13	15	合計				70	14	9	10	17

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

Score ranking [Team]

1	23	31.08%	横地 聖真
2	19	25.68%	浅井 修伍
3	10	13.51%	間山 柗

1	23	32.86%	中山 玄己
2	19	27.14%	須藤 陸
3	11	15.71%	伊東 翼

Score ranking [Game]

1	23	横地 聖真	福大大濠	1	23	中山 玄己	能代工業	3	19	浅井 修伍	福大大濠
								3	19	須藤 陸	能代工業

初戦を勝利し、波に乗る能代工業と福大大濠の戦い。

1Q先制したのは大濠。#14横地のジャンプシュートが鮮やかに決まる。能代工も早いパス回しで対抗するも、大濠は#14横地が鋭いドライブから得点を重ね、試合の主導権を握る。能代工は激しいフルコートディフェンスで対抗するも、大濠#14横地の勢いを止められない。しかし大濠のメンバーチェンジから流れが変わり始める。能代工は#11須藤が3本連続で3Pを決め、2点差まで盛り返す。堪らず大濠はメンバーチェンジをして巻き返し、22-12と大濠がリードして1Q終了。

2Qに入ると大濠が高さを生かしてリバウンドを制し始める。対する能代工は細かいパス回しから3Pで対抗する。残り8分半に能代工#11の須藤がこの試合4本目の3Pを沈めたところで大濠がタイムアウト。その後も能代工は#13中山の3Pで6点差まで迫る。しかし大濠は#14横地に効果的にボールを集め、得点を重ねる。能代工も#5の新田がブロックショットを見せるなど対抗するが、大濠#14横地の勢いは止められず、42-30で前半を終了する。

3Qも両チームともに激しいディフェンスで相手のミスを誘う。しかし大濠はファウルを重ね勢いに乗れない。一方の能代工もジャンプシュートが決まらず両チーム無得点が続く。すると大濠は#14横地が鋭いドライブからファウルを誘い、バスケットカウントも決めて15点差とする。しかし残り6分で能代工がタイムアウトを取ると、激しいディフェンスから#5新田や#12伊東が連続で得点し11点差まで詰める。さらに#11須藤が3Pを沈めて8点差。その後も両チーム激しい攻防を重ね、大濠の#14横地が終了間際にフリースローを3本決め、11点差とするも、能代工#13中山がブザービーターとなる3Pを決めて8点差で3Qが終了。

4Qに入り、能代工は#12伊東のミドルシュートで6点差まで詰める。大濠は#14横地にボールを集めるも、能代工はダブルチームで対抗し、#13中山の3Pで一時は5点差とする。しかし大濠は#7浅井や#8木林のドライブでファウルを誘い、フリースローも決めて得点を伸ばす。能代工は#11須藤や#12伊東のミドルシュートで6点差と食らいつづき、大濠は能代工が与えたフリースローを確実に決めて得点を伸ばす。終了間際、能代工は#13中山が3Pを沈め、残り17秒で2点差まで詰め寄るが及ばず。終始試合をリードした大濠が74-70で勝利した。

文責 【 佐々木隆介 】